



『お尻かわい〜!!』

加増区 清水 佳奈さん



子どもの頃から漫画を描くのが大好きで、中学時代は油絵に興味を持ち美術部に所属。卒業後は一日絵を描くことから離れていたようですが、子育てが一段落した十数年前、公民館で行われた絵画教室に参加されました。アクリル、油絵、水彩、パステルの四種類の中から選んだのはパステル画。パステル画のもつ優しい風合いに魅せられて、絵を描きたいという気持ち

清水さんの中で再燃しました。教室終了後しばらくして、受講時、清水さんの「描くことを自由に楽しむ姿」を気に留めていた先生が、ある絵画展への参加を勧めてくれたそうです。「釜飯の蓋の裏とハガキという二つの画材に絵を描く」という公募展でした。締切まで時間がなく、顔や表情を描くのは大変そうだからいつそのこと後ろ姿でどうだろう? そんな思いつきで描いてみたんです(清水さん)。象のユーモラスな後ろ姿を描いたその作品は、絵画展でいきなり入賞を果たします。

それをきっかけに、動物の後ろ姿を描くようになり、これまで描いたのは、シマウマやキリン、愛犬など20種類ほど。どれも、パステル画の持つ柔らかさと相まって、後ろ姿なのに表情がある:そんな作品に仕上がっています。描



く時は、テレビや本などで見た後ろ姿は参考程度にして、あとは自分の中でイメージを膨らませていくのだといいます。構図が決まると輪郭を簡単に鉛筆でとった後、まず黄色をベースに塗り、その上にバランスを見ながら色をのせていくそうです。絵の特性上修正がしづらいため、始めたから一気に描き進め、一枚の作品は1〜2時間ほどで描きあげています。

最近、描きたいと気になっているのはワオキツネザル。尻尾のフワフワ感をどう表現しようかと考える時間がまた楽しいのだそう。そして清水さんのもう一つの趣味はオカリナ演奏ということで、「パステル画が飾られた中でオカリナ演奏を楽しんでもらう、そんな作品展ができれば楽しいですね」。

編集委員 金子 美江

俳句

やまなみ句会

- 明易し年忌の疲れ残るまま 土屋 武子
- 一束のぎばし売らるる道の駅 榊原 恵
- 地下足袋の小鉤湿りや花林檎 塩川 正
- 探しもの探した如く余花に会ふ 荻原 君江
- 明易し余り明るく時計見る 阿部 和
- 燕の子タクシー会社の軒賑やか 小栗 富美

短歌

和田短歌会

- シャボン玉 無数に舞へる夕暮に ひとの姿を見失ひたり
- 唯仰ぐ 遠くに人の 声もする
- 今宵の銀河 はなやぎてをり 小林 嘉子
- 麦藁帽も 杖もわたしが 使ひます 宅急便でも 亡夫には届かぬ
- 癒えたなら きっと行こうねと きめてゐた 星野 節子
- 蓼科山の灯 螢火のごと
- 浅草寺 皇居議事堂 巡りゆく 九十歳の 春の旅なり
- 足をひき ガイドの声も 聞き流し 無言で歩く はらからの旅 遠山 静子